

添付文書・比較
(総合機構/ホームページの添付文書情報より抜粋 /Dec.2010)

アルブミン製剤の効能効果一覧

	高張製剤	等張製剤
製剤名	<p>献血アルブミン25”化血研” (化学及血清療法研究所)</p> <p>献血アルブミン25%「ベネシス」 (ベネシス)</p> <p>献血アルブミン25-ニチャク (日本製薬)</p> <p>赤十字アルブミン25%静注 (日本赤十字社)</p> <p>ブミネート静注液25% (バクスター)</p> <p>アルブミナー25%静注 (CSLベーリング)</p>	<p>献血アルブミン5%「ベネシス」 (ベネシス)</p> <p>献血アルブミン5-ニチャク (日本製薬)</p> <p>ブミネート静注液5% (バクスター)</p> <p>アルブミナー5%静注 (CSLベーリング)</p>
効能又は効果	アルブミンの喪失(熱傷, ネフローゼ症候群など)及びアルブミン合成低下(肝硬変症など)による低アルブミン血症, 出血性ショック	アルブミンの喪失(熱傷, ネフローゼ症候群など)及びアルブミン合成低下(肝硬変症など)による低アルブミン血症, 出血性ショック
用法及び用量	通常成人1回人血清アルブミンとして5~12.5gを緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する なお、年齢、症状、体重により適宜増減する	通常成人1回人血清アルブミンとして5~12.5gを緩徐に静脈内注射又は点滴静脈内注射する なお、年齢、症状、体重により適宜増減する
用法及び用量に関連する使用上の注意	<p>1.本剤の使用時には急激に循環血漿量が増加するので、輸注速度を調節するとともに、肺水腫、心不全などの発生に注意すること。なお、本剤50mL(アルブミン12.5g)の輸注は約250mLの循環血漿量の増加に相当する</p> <p>2.投与後の目標血清アルブミン濃度としては、急性の場合は3.0g/dL以上、慢性の場合は2.5g/dL以上とする。本剤の投与前には、その必要性を明確に把握し、投与前後の血清アルブミン濃度と臨床所見の改善の程度を比較して、投与効果の評価を3日間を目途に行い、使用の継続を判断し、漫然と投与し続けることのないよう注意すること</p>	<p>1.本剤の大量使用はナトリウムの過大な負荷を招くことがあるので注意すること</p> <p>2.投与後の目標血清アルブミン濃度としては、急性の場合は3.0g/dL以上、慢性の場合は2.5g/dL以上とする。本剤の投与前には、その必要性を明確に把握し、投与前後の血清アルブミン濃度と臨床所見の改善の程度を比較して、投与効果の評価を3日間を目途に行い、使用の継続を判断し、漫然と投与し続けることのないよう注意すること</p>